

教員氏名：日高 裕介（教育学科／講師）

1. 教育の責任（何をやっているか）

体育社会学およびコーチング論の講義を担当し、理論と実践の両面から学生の学びを支えている。授業内容は、実際のスポーツ現場での事例や映像資料、グループワークを取り入れ、学生が能動的に学ぶ姿勢を養うことに重点を置いている。その結果として、学生アンケートによる授業評価では非常に高い満足度を得ており、優れた授業として表彰された実績もある。

また、サッカー部の部長として、年間を通じた練習メニューの作成や試合運営、チームマネジメントを行っている。特に選手のメンタルサポートや進路支援など、競技面だけでなく人間的成長にも配慮した指導を心掛けている。さらに、全国各地の大会や高校サッカー部を訪問し、有望選手のスカウティング活動を行っており、これまでに複数の有力選手を本学へ迎え入れることに成功している。

加えて、公務員志望の学生を対象としたサークル活動では、地方公務員試験（市役所・町村役場等）に向けた指導を行っている。過去問演習、時事対策、模擬面接などを継続的に実施し、実際に複数の学生が合格を果たしている。こうした活動を通じて、学生の多様な進路希望に寄り添った支援を展開している。

留学関連では、2年連続で海外留学引率を担当し、現地での学生サポート、安全管理、学修指導、異文化交流の促進などに努めてきた。

2. 教育の理念（なぜやっているか）

教育とは知識の伝達にとどまらず、学生一人ひとりが自ら考え、行動し、社会に貢献できる力を育むことにあると考えている。そのため、私は「学びの主体は学生自身である」という理念を軸に、常に学生の視点に立った教育を心がけている。

特に、体育社会学では社会の中でのスポーツの意義や影響について考察させることで、学生が身近な現象を多面的に捉える視点を身につけられるよう努めている。また、コーチ

ング論においては、スポーツ指導者としての倫理や人間理解、対話の重要性を伝えることで、学生の人間的成長も促している。

部活動や公務員指導といった正課外の活動においても、学業と並行した「生きた学び」の場としての価値を重視している。公務員試験合格はゴールではなく、地域社会の中でどのように役立てる人材になるかを常に意識づけるようにしており、これは教育全体においても同様である。

このように、私は学生一人ひとりの可能性と個性を尊重し、教育を通じてその芽を伸ばすことを自らの使命としている。

3. 教育の方法（どのようにやっているか）

授業においては、教科書に依存しすぎることなく、現実社会との接点を意識した教材や課題設定を行っている。たとえば、体育社会学の授業では、オリンピックやプロスポーツの報道を取り上げ、それらが社会に与える影響について学生同士が議論するアクティブラーニングを実施している。

また、コーチング論では、模擬指導演習やリフレクションレポートの提出を通じて、理論と実践の統合を図っている。授業外でも質問や相談に対応しやすい雰囲気づくりを意識し、学生との距離を縮めることで学びの深まりを支援している。

サッカー部の指導においては、チーム全体の戦術理解と個別の課題に応じたトレーニングを両立させている。週次の個別面談を通じて選手の心理的サポートも行い、信頼関係の構築に努めている。

公務員サークルでは、論作文指導や模擬面接のフィードバックに力を入れており、地方行政の最新動向などをタイムリーに取り上げた講義も行っている。こうした個別指導とグループ活動の併用により、学生の多様なニーズに柔軟に応じている。

4. 教育の成果（行った結果どうだったか）

これまでの授業評価においては、「わかりやすかった」「自分で考える機会が多かった」「将来に活かそう」といったポジティブな声を多くいただいております、一定の教育的成果を上げていると考えています。その中で、特に学生の満足度が高く、学内の優秀授業表彰を受賞した経験があります。

サッカー部においては、チームの競技力向上だけでなく、卒業後の進路決定においてもサポートが奏功しており、プロチームのセレクション参加者や公務員・教員採用試験の合格者を複数輩出している。これは、日常的な対話と選手理解を重視した結果であると自負している。

公務員指導では、近年の試験傾向に対応した実践的指導を行った結果、複数名の合格者を毎年出しており、特に地方自治体職員として活躍している卒業生からの感謝の声も寄せられている。

留学引率においても、学生が異文化理解を深め、自信を持って英語を話す姿を目にする機会が多くあり、プログラムの教育効果を実感している。

5. 教育における今後の目標（これからどうするのか）

今後の教育においては、現代社会の変化や多様性に対応できる柔軟な人材育成を目指し、さらなる授業改善と教材の高度化に取り組む予定である。ICTの活用や反転授業など、新たな教育手法の導入を視野に入れ、学生の主体的な学びをより一層促進したい。

また、サッカー部の指導体制を強化し、他大学との連携や地域貢献活動にも積極的に関わることで、学生がスポーツを通じて社会とつながる経験を提供したいと考えています。公務員サークルにおいては、合格だけでなく「公僕としての志」を持てるような育成に力を入れ、OBとのネットワーク構築にも取り組んでいく。

留学支援の面では、短期・中期・長期といった多様なプログラムの質向上と安全管理体制の強化に努め、より多くの学生が海外に挑戦できる環境づくりを目指す。

教育活動全体を通じて、学生の成長を支える教員として常にアップデートし続ける姿勢を忘れず、今後も実践的かつ人間的な教育を展開していく所存である。

(2025 年 6 月 20 日現在)